

| 第 2 回 魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会 議事録 |                  |           |                |           |
|---------------------------------|------------------|-----------|----------------|-----------|
| 会 議 日 程                         | 令和 6 年 12 月 12 日 |           | 午後 7 時 00 分 開会 |           |
|                                 | 令和 6 年 12 月 12 日 |           | 午後 8 時 45 分 閉会 |           |
| 場 所                             | 本庁舎3階 302会議室     |           | 書 記            | 井口 啓一     |
| 出 席 委 員                         | 委 員 長            | 雲 尾 周     | 副 委 員 長        | 栃 倉 敦     |
|                                 | 委 員              | 尾 山 寿 一   | 委 員            | 谷 脇 祥 子   |
|                                 | 委 員              | 佐 藤 志 緒 美 | 委 員            | 佐 藤 隼 人   |
|                                 | 委 員              | 荒 井 安 代   | 委 員            | 内 田 美 保   |
|                                 | 委 員              | 櫻 井 裕 介   | 委 員            | 土 田 知 美   |
|                                 | 委 員              | 佐 藤 玲 子   | 委 員            | 大 関 み どり  |
|                                 | 委 員              | 梅 田 愛 子   |                |           |
| 欠 席 委 員                         | 委 員              | 青 山 直 樹   | 委 員            | 上 村 学     |
| 事 務 局                           | 教 育 長            | 樋 口 健 一   | 事 務 局 長        | 大 塚 宣 男   |
|                                 | 学校教育課長           | 岡 部 忍     | 管理指導主事         | 五 十 嵐 哲 也 |
|                                 | 管理指導主事           | 米 山 智     | 教育センター次長       | 須 佐 光 行   |
|                                 | 学事係長             | 星 野 巧     | 庶務係長           | 井 口 啓 一   |

## 会議事項及び議事の経過

### 日程第1 開会宣言

（ 委 員 長 ） これより、第2回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を開催します。

### 日程第2 委員長挨拶

（ 委 員 長 ） （あいさつ）  
**【岩手県紫波郡紫波町の例を紹介】**  
 星山えほんの森保育園  
 星山こどもVILLAGE内にある、暮らしに寄り添う農保連携保育園。

### 日程第3 事務局から報告等

（ 委 員 長 ） 日程第3、事務局からの報告をお願いします。

（ 教 育 長 ） 皆さんこんばんは。雪も降ってきました、またお仕事の後でお疲れのところ、今日は集まっていただきましてありがとうございます。  
 今回で第2回目になります。前回は市の小中学校の現状についてご理解いただきまして、いよいよ本格的な検討に入る段階と思っております。  
 次第にありますように、本日は適正な学校規模について議論をしていただきたいと思います。  
 子どもたちの数によって学級数が決まります。学級数が決まると、その数によって教員の数も決まります。何人教員が来るのかによって学校の運営がいろいろと行われていくわけです。  
 先にお配りしました文科省の手引き等にも、小規模校の場合と大規模校の場合のメリットデメリットが示されております。今日は改めましてそういうメリットデメリットを確認していただきながら、子どもたちにとっての適切な学校規模、学級数等はどんなものなのかということをご検討いただければと思っております。  
 国では、義務教育の中核として、学校教育が果たす役割は何だろうというようなことを審議しています。学力はもちろん大事ですが、「学力だけでなく、学校生活全般において、他者と関わりながら、共に学び、人間性を涵養する学校教育の役割の重要性を再認識」するということ。それから、「児童生徒と教師が集い、共に学び、生活し、成長する中で、民主的で公正な社会を実現する場としての学校の価値を最大化していくことが重要」だ。というような視点も示されております。このような視点も頭の隅に置きながら、今日も皆さんそれぞれの立場から忌憚のないご意見をたくさんいただければと思っております。

- (事務局) お知らせいたします。  
・ 本日の欠席委員について  
・ 報道機関の取材について

#### 日程第4 議事

##### (1)適正な学校規模について

- (委員長) それでは議事に入ります。(1)適正な学校規模について事務局から説明をお願いします。
- (事務局) ご説明いたします。  
(資料により説明)  
資料1 児童生徒数の見込み  
資料2 学級数による分類  
資料3 教職員の定数配当について  
資料4 小規模校のメリット・デメリット
- (委員長) 「①学校運営上の課題」及び「②学校運営上の課題が児童生徒に与える影響について」、の説明をしていただきました。  
ただいまの説明につきましてご質問等ございませんでしょうか。
- (委員長) 無いようですので、次の「③望ましい学級数」について、皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- (委員) ここでいうところの大規模校と小規模校の境目はどこですか？
- (事務局) 児童生徒数が何人以上、何人以下ということではありませんが、小学校では「12学級以上18学級以下を標準とする。」法令で定められております。よって、これより少ないものが小規模校で、これより多いものが大規模校ととらえていただくとわかりやすいと思います。
- (委員長) 複式学級が生じる場合は過小規模と言われています。状況にもよりますが、24から30学級以上になると過大規模となります。
- (委員) 資料に書いてあるように、小学校12から18クラス、1学年当たり2クラス程度が望ましい学級数だと私はとらえています。しかし、これを魚沼市にあてはめて学校統合を進めていったとして、私にはそのビジョンが描けない。この会で皆さんから議論してもらおうということですが、盛り上がるのかどうか(疑問又は不安)。私は小中高ともに大規模校でした。1クラス40人位でした。娘は、宇賀地小学校の6年生です。単学級ということで小さい学校でやりにくいことはいかないか聞いてみると、「全然やりやすい。」と答えていました。  
そういった、子どもの視点と、(自身の)出身校と魚沼市の学校を見比べての視点を持って会議に出席しています。
- (事務局) ありがとうございます。委員のおっしゃる通り、本当に答えがなくて正解もないのかなと私も感じています。望ましい学級数というのは、この文科省の手引きで示しており、確かにそうなんだろうと思いますが、それをそのまま魚沼市に当てはめられるのかどうかというのは、皆さんのお考えを聞かせてもらいながら、考えていかなければと思っています。  
先ほど話にありました、お子さんが小さい学校でも楽しく過ごしていて、地域の人が盛り上げて、地域の支えがないと学校行事は、なかなかできない。運動会においても、児童の数より、応援に来ている保護者の数が多かったと私は実感しました。知り合いの方からも「草刈が大変なんだよ」と聞いたりして、やはり地域の力がないと学校運営は継続できないと感じています。  
この会議では、12から18学級が適正だから、そうしようということではなく、「魚沼市だったらどうなんだろう、どういう規模がいいんだろう」というところを、皆さんから活発なご意見をいただければ、ありがたいと思っています。
- (委員) (私が住んでいる)堀之内地区は、いろんな人との繋がりがあって、歴史をすごく強く感じると思ってます。堀之内の街中は、雪中花水祝いか北国街道とか歴史をすごく感じる場所がありますし、宇賀地地域は地域の繋がりが強いと感じています。(以前住んでいた所に比べ)神社の数も圧倒的に多い。消防団も多い。そういうこともあり、地域の繋がりが強いのかも。人口減少が進んでいるからといって(他の地域と状況が違うので、標準的な数字を)単純にあてはめるのは難しいと思います。

( 委 員 ) 私には、小出小学校と小出中学校に通う娘がいます。小出小学校の5年生は79人いて、3クラスあります。低学年、中学年、高学年で3回クラス替えがありますが、1回も同じクラスになったことがない子がいて、娘に聞いても「話したことないよ。」と言ってます。親も把握できていないことがあります。

2年生は2クラスあって、(1クラス) 34人です。人数が多く、低学年は落ち着きもなく先生一人で見てるのが大変そうに思う。低学年の時は、クラスを増やし、1クラス当たりの人数を減らすことで先生の負担も減り、一人ひとり見れるし、親も把握しやすい。

高学年になれば落ち着いてくるので、1クラス当たりの人数を増やしてもいいと思う。

来年度、新1年生になる予定の保育園の年長児を見ていると、この子たちが45分間教室に座っているとは思えない。35人の新1年生クラスを受け持つ先生の負担は大きいと思う。

中学校では、伊米ヶ崎小学校(を卒業した)子たちと一緒にになりますが、(娘の)話を聞いていると一番仲のいい友達も伊米ヶ崎の子です。その子の気質や性格もあると思いますが、小規模校から大規模の集団に入るとコミュニケーションが図りにくいというのは、問題になることではないと思います。

1クラスの人数を少なめにして、クラスの数を増やし、みんなが(互いに)知っているような、コミュニケーションのとれる体制づくりもあっていいと思う。

( 委 員 ) 学校の統廃合が進み、人数が増えてくると不登校の児童生徒が出ていて問題になっていると聞きました。小規模校のデメリットが色々書いてありますが、必ずしもそうではないと思います。

教職員についても、昔より受け持ちの児童生徒数は少なくなっていますが、一人一人の児童生徒に向き合いなさいという法律的なものがあると聞いていますので、負担は昔に比べてかなり増している。1学級35人という数字も、児童生徒も含めて本当に気持ちよく運営できる人数なのか、というところはどこにも根拠がない。一人でも(素行の悪い)子がいれば、クラスの輪が乱れ、目に見えないイジメ等により登校しにくくなる。

決して、この統合とか新しい学校にするというところは、プラスに向かっていくと思えていない。

( 教 育 長 ) 低学年のうちは、少人数がいいというのは、私も大賛成です。しかし残念ながら35人という数字は、国の基準で定まっています。その根拠は何かということところは色々あるかと思いますが、小学校は1学級35人、中学校は1学級40人という基準で編成されてきますので、思いは一緒なんですけど、そこは法的に数値として定まっているということで、ご理解をいただくしかないところです。

それから小学校は35人が1学級の基準になっていますが、新潟県独自の措置で1年生と2年生に限っては32人で編成することになっています。

それから不登校の出現のお話がありましたが、不登校につきましては全国的にも毎年増加をしています。魚沼市も増えている状況です。ただ、要因につきましては様々な要因が絡んでいますので、一概に学校規模で不登校の出現数が増えるとか減るとかということは、現在の実際の子どもたちを見ていると、そこまでは言えないだろうと思っています。様々な家庭の問題とか、友達の問題とか色々な要因がありますので、そこと学級数や、学校規模を結んで直接すぐに今後(不登校率が)進むというのは難しいと思っております。

( 委 員 長 ) ほかにご意見はありますか。

( 委 員 ) 伊米ヶ崎小学校に通っている娘が2人います。人数の推移の見込み児童数の資料を見て愕然としたんですが、複式学級になってしまうということで、ショックを受けました。

ですが、少ない人数の学校だからこそこいいところもあると思います。発表会などを見ていると、一人一人が本当に大きな声で自信を持って、発表する姿に驚きましたし、親としてうれしく思いました。

小出小学校の子たちとの交流会をしていると思うのですが、小出小学校の子たちは、すごくパワーがあって人数にも圧倒されたと(伊米ヶ崎小学校の子たちが)言っているのを聞きました。中学校に入って、今まで少人数の環境で過ごしてきた伊米ヶ崎の子たちが(大勢の中に馴染めるのか)少し不安に思います。中学校に入って圧倒されて、不登校になってしまったという事例も聞いていますので、配慮をしていただけたらと思います。

- ( 委 員 ) 伊米ヶ崎と青島地域は近いので、青島からも伊米ヶ崎小学校へ通えるように  
つ づ き できないかと思います。スクールバスとかの運用の関係もあると思いますが、  
一つの案として提案させていただきます。  
やはり少人数の良さというのは、あると思うので、存続はしていった欲しい  
と思っています。
- ( 委 員 ) 私は湯之谷地域に住んでいますが、伊米ヶ崎の習字教室に（子どもが）通っ  
ていました。皆さん、よそから来たうちの子にとっても話し掛けてくれて、明る  
くて親しみやすかったです。  
関係ないことになりますが、学区外の学校に通っている子はどのくらいいま  
すか？
- ( 事 務 局 ) 小学校区だと49人おります。一番多いのは、本来は湯之谷小学校が指定校で  
すが、小出小学校に通ってる児童が26名おります。広神西小学校が指定校で、  
他の学校に通っている児童が6人。広神東小学校が指定校で、他の学校に通っ  
ている児童が3人。小出小学校が指定校で、他の学校に通っている児童が9人。須  
原小学校が指定校で、他の学校に通っている児童が2人。堀之内小学校が指定校  
で、他の学校に通っている児童が3人。中学校でも学区外通学は合計で29人おり  
ます。許可できる理由については、要綱で定められています。
- ( 委 員 ) 私が知っている例ですと、井口新田から小出小学校へ通っているお子さん  
と、堀之内から小出中学校へ通っているお子さんがいます。（理由についての  
発言がありましたが、個別事案のため議事録への記載はしない）
- ( 委 員 ) 例えば、大規模校に在籍している子が、馴染めないという理由で小規模校に  
転学が認められるようであれば、（児童生徒数が）少なくならないと思います  
が、どうですか？
- ( 事 務 局 ) 学区外就学の基準がありますので、今すぐそういった例が認められるという  
ことはないと思いますが、この会議の中でそのような事も考えていかなければ  
ならないと思います。
- ( 委 員 長 ) 東京都品川区では、学校選択制が導入されています。ただし、（面積が狭い  
ため）自力で通える距離に（学校が）あるということです。  
調整区域を設けているところもあれば、完全な自由選択ができるところもあ  
るということです。  
自由選択にした場合、通学手段のこともあるので、なかなか難しいのが現状  
だと思います。
- ( 事 務 局 ) 皆様のご意見を聞かせていただくと、小学校は少人数で先生方の目が行き  
届くのがいいと思っていますが、中学校はどうなのでしょう。中学校でも1クラスで少人数が良いのでしょうか。
- ( 委 員 ) 私は、小学校は少人数がいいというのが正直な気持ちです。中学校はクラス  
数が増えてもいいと思います。ただし、35人ギリギリだと先ほどの話のような  
問題もあるので、（一概に良いとは）ならない。  
あと、部活動についても生徒数が減り選択の幅が狭くなっていると、当時娘  
から聞いていますし、今もそうなんだろうなと想像がつかます。地域移行が進  
んでいるとのことですが、その辺も課題があると思います。
- ( 委 員 ) 私は子どもが3人おり、魚沼北中に2人須原小に1人通っています。魚沼北部地  
区はご存じの通り、人口減少が著しく、子どもの人数もどんどん減っていくの  
は、何年も前からわかっていていたことでもあります。私が通っていたころから学  
級数は2クラス、中学校は1クラスでした。  
今、すもんこども園の子は数十名で、せっかく新しい施設ができたのに将来  
は老人ホームになってしまうのではないかと、そんなイメージを持っています。  
少人数について子どもたちと話したことがあります。1回も「少人数だから  
悪い」と聞いたことがない。ある教員の方から「少人数の学級だと将来、高校  
とか大きいところに行ったら君達が大変なんだよ。」と言われたと聞きました。  
考えていることや感じていることのギャップがあると感じました。  
学級数によって教員の数が決まると聞いて、先生の働く場所を確保するた  
めに統廃合するのかとも思ったりしました。変えなければ先生が来てくれないと  
か、配置ができないというのはわかるのですが、本当は何か別の目的があるの  
かとも思ったりします。中学校のことですが、行事の数が減ってきたと感じて  
います。内容も淡白になっています。生徒の意見が反映されていない。先生方  
の働き方改革と言われており、授業以外の負担（踊りを教えたり、開催準備をし  
たり）が1日の中で時間が割かれるということもわからなくはない。生徒数や学  
級数が減っていくというよりも、教員の人数が1つの学校にある程度必要。

- ( 委 員 ) 教員の人数が少ないと恐ろしいことに、結構独断的な考えの先生が増えてきていますので、ほかの先生に意見が聞けないし、自分の判断だけで物事を進めてしまう。そういう面も見られるということで教員の人数確保というのは大事だとわかる。この検討委員会で、ただ統廃合、少人数が駄目だとか、そういうことばかりではなくて、またちょっと違う観点から皆さんの意見を聞かせてもらいたい。
- ( 事 務 局 ) 統廃合を進めると、先生の数はいくつか減らないといけません。仮に、今、中学校が5校ありますが、1つにすると校長は5人が1人になります。教頭も5人が1人になります。教員は58人ですが、30人になります。だから統合すればするほど、教員の数も減っていく（働き場所が減っていく）ことになると思います。  
ある学校栄養職員の方から聞いたのですが、栄養教諭は新潟県で80人ぐらいしかいない。ということは80ヶ所しか働く場所がない。それを全県で人事異動しようとする、「どんどん遠くの学校に行けと言われてしまう。家庭が崩壊します。」と言われたことがあるので、必ずしも統合が教員のメリットだけではないということをお知らせいただくとありがたいです。
- ( 委 員 ) 魚沼市の小中学校が40年とか50年経って経年劣化している。その辺の問題も十分背景にある。今の議論とは少し切り離れた感じで進んでいますけど、ここも少し意識するところかなと思っています。宇賀地小学校は一昨年リニューアルしています。幾らお金をかけてやったか私はその時意識してなかったのですが、当分使えるなという感じのリニューアルをしています。国から補助金が出るのか、魚沼市が100%負担するのか、私はわかりませんが、こういった（建て替えや大規模修繕の費用の）ことも議論する必要があると思う。
- ( 教 育 長 ) お金の面では非常に大きな問題を抱えています。築40年以上なので、順次改修を進めている状況です。中学校を大規模改修すると、単年度で2億円、それが3ヵ年くらいかかります。
- ( 委 員 ) それは魚沼市が全額負担なのですか？
- ( 事 務 局 ) 今までですと合併特例債とか、過疎債という借金を使っています。これを借りると後から7割が国からの交付税で帰ってくる仕組みです。
- ( 教 育 長 ) 委員がおっしゃるように、そういう財政の部分も必要な視点だと思っていますが、いろいろなテーマを入れると非常に混乱してきますので、お金等については次回以降のテーマとして予定しております。  
今回は、魚沼市の子どもたちに適切な教育を提供していく場合に、環境として規模や在り方はどの程度がいいんだろうということに絞って話を進めていただけたらと思います。通学距離だとか、通学手段だとかお金だとか、いろんな視点がありますので、順に検討を進めていただければと思っています。
- ( 委 員 ) 私は、資料を見て「デメリット」にすごく頷きました。  
小学生の子が3人、高校生が1人います。須原小学校は奥の方の小規模な学校というイメージで、生活の中で学校の話もしますが、複数の子どもがいるのでそれぞれ状況が違ってきます。楽しくやっている子もいれば、問題を抱えている子もいます。トラブルがあった時に少人数だと紛れる場所が少なく行き詰まっているように見えます。成長がゆっくりすぎてしまうというか、少人数であるから変わらない感じっていうのが、見ていて親としてモヤモヤしてしまう。別に先生のせいでもないし、親のせいでもないし、小規模だから行き詰まっているのではないかと長年感じていました。  
資料を読んで、先生達もちょっどいい、子どもたちもクラス替えがたまにはあって、息が抜けるとか、気の合う友達と巡り会えるとか、何か逃げ場があるみたいな、そういう整った環境になればいいなと思っています。  
(魚沼市の地理的な)真ん中辺にそういった学校ができれば、部活動とか通学などのフォローを市からしっかりしていただきたいと思っています。
- ( 委 員 ) 中学校の適正なクラス数の話になりますが、思春期だしクラス替えは絶対あったほうがいいと思います。ずっと同じメンバーで、本当に行き詰まってくると学校に来なくなる。学校に来なくなった子を毎日迎えに行ったりしました。うちの子は、クラス替えで友達と離れてがっかりしていましたが、それによって新しい友達もできるので、中学校はできれば3クラスあった方がいいと思います。

( 委 員 ) 小出中学校に娘が通っていて、3クラスあります。人数が多いため揉め事も多くあります。思春期、反抗期のため毎年クラス替えがあるのはいいと思う。先生もそういうところは考えてくれている。修学旅行の班分けの時も考慮してくれた。中学生になると人間関係も複雑になったりするので揉め事も多くなる。小学生低学年のうちは少人数のクラスで、先生の目が行き届くようにしてもらえたらありがたい。中学生は逆にある程度の人数がいて、クラス替えがあり新しい人間関係が作れる環境を作ると、高校に入っているいろんな地区の子と一緒にあった時、(スムーズに人間関係を築けるので)そういう環境を作ってほしいというのが親としての意見です。

( 委 員 長 ) ほかにご意見はありませんか。

( 委 員 ) 私は、須原小学校と入広瀬小学校の統合、子どもが複式学級などの経験をしてきた保護者です。複式学級はいいところもあれば、すごく大変なところもありました。3、4年生の内容を2年かけて学びます。順を追って学習できればいいんですが、教科によってはいきなり難しい内容の宿題が出たりしてました。なので望ましい学級数とすれば、少なくとも複式ではなくて、その学年ごとのクラスがあった方が良いでしょう。

入広瀬小学校のときは、女の子1人だけでした。須原小学校と一緒にあって同性の子がいることで親としても良かったと思います。小さな学校から少しでも大きな学校に行けたことで、いろいろなことが出来るようになって、それを体験できたことは子どもにとっても良かったと思います。

高校生になったときは、知り合いも少なく戸惑っていたようですが、部活の大会などで顔見知りの子を見つけたり、自分なりのコミュニティを作っていると思います。しかし、馴染めない子もいるので、周りの大人や先生方、地域の人たちのフォローが大事だと思います。

( 委 員 長 ) ほかによろしいでしょうか。  
では、議事については以上とさせていただきます。

#### (2) 次回の検討テーマについて

( 委 員 長 ) それでは次に(2)次回の検討テーマについて、事務局から説明をお願いします。

( 事 務 局 ) ご説明いたします。  
(資料により説明)  
学校の適正配置について 手引き15ページ～  
・通学、スクールバス  
・学区など

( 委 員 長 ) ただいまの説明につきましてご質問やご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。では、次回はそうようにお願いします。

#### 日程第5 その他

( 委 員 長 ) その他となりますが、事務局から何かございますでしょうか。

( 事 務 局 ) 事務局からいくつかご連絡をさせていただきます。  
・次回開催日等 1月29日(水曜日) 本庁舎3階 議会会議室  
・回りの会議資料送付 会議の1週間前くらい

( 委 員 長 ) ほかにございませんか。  
無いようでしたら、日程第5その他を終了します。

#### 日程第6 閉会宣言

( 委 員 長 ) 以上で第2回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を閉会といたします。  
ありがとうございました。